

1. 科目名 (単位 数)	多文化理解入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1335 GELA1135
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	<p>現代はグローバル化の影響で以前にもまして人やモノが国境を越え移動するようになり、文化背景が異なる他者が日常の中で身近に存在している。その一方、文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相手は自分と同じ考え方をするとは限らないし、自分とは異なった行動をすることもあ。そのような文化の違いにより誤解などが生じることもあるため、「文化」の影響について知ることは多文化共生のために特に大切である。</p> <p>本講義では異なった文化背景を持つ様々な他者の理解を深めると共に、自文化、つまりは自分について理解することも目的とする。自分とは異なる文化背景を持つ他者に向かい合うことで、自分と自分が属する文化への理解を深めていく。また多文化理解を促進する態度や技能を個人ワーク、ペアワーク、グループディスカッションを通し身につけていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「文化」という概念についての理解を具体例を通し、説明できるようになる。</li> <li>2. 自分とは異なった背景を持つ他者について理解できるようになる。</li> <li>3. 自分自身の「文化」的背景への気づきを高め、「文化」がもたらす影響を意識できるようになる。</li> <li>4. 多文化理解を促進する態度や技能を身につける。</li> <li>5. 多文化共生社会の実現のために自分ができることを自分なりに考え意見をいえる。</li> </ol>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習課題として指定された教科書の課題を実施した上で授業に臨むこと。</li> <li>2. 事後学習課題では、授業内で扱った内容の理解を定着できるよう教科書を再度よく読み、各章に応じた課題に取り組むこと。</li> <li>3. 第3回と第8回の授業時、それまでの学びの振り返りのために「自文化」と「異文化」についてそれぞれ小レポートを課す。</li> </ol>		
10. 教科書・参考 書・ 教材	<p>【教科書】原沢 伊都夫著 『異文化理解入門 [改訂版]』 研究社、2024。</p> <p>【参考書】授業時に指示する。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「文化」という概念についての理解を具体例を通し、説明できるようになったか。</li> <li>2. 自分とは異なった背景を持つ他者について理解できるようになったか。</li> <li>3. 自分自身の「文化」的背景への気づきを高め、「文化」がもたらす影響を意識できるようになったか。</li> <li>4. 多文化理解を促進する態度や技能を身につけることができたか。</li> <li>5. 多文化共生社会の実現のために自分ができることを自分なりに考え意見をいえるようになったか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への積極的態度 総合点の 30%</li> <li>2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30%</li> <li>3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40%</li> </ol>		
12. 受講生への メッセージ	<p>グローバル化の進展に伴い、異文化・多文化理解は今後益々重要視されることとなる。この授業では、意識、無意識に関わらず我々が身近に経験する異文化・多文化的要素について取り扱う。典型的な例が「カルチャーショック」と言える。海外旅行や留学での経験をまず想起するであろうが、このカルチャーショックは国内にいても生活の中で経験するものである。こういった日常的な異文化・多文化的要素について、グループワークを主に実施していく中で学びを深めていく。自身の経験を積極的に共有し合い学びを深めていこう。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、第1章 異文化を理解する (pp. 19-24)	事前学習	「文化とは何か」について自分なりの答えを考えておく。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第2回	第2章 文化とは(その1) (pp. 29-36)	事前学習	第2章を読み、確認チェック2、3、4を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、考えるポイント (p. 36) を通じて自身の体験について振り返る。
第3回	第3章 文化とは(その2) (pp. 41-52)	事前学習	第3章を読み、ワーク2と確認チェック5、6を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、自文化について的小レポートを書く。
第4回	第4章 異文化適応 (pp. 57-66)	事前学習	第4章を読み、確認チェック7を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、考えるポイント (pp. 65-66) を通じて自身の体験について振り返る。
第5回	第6章 違いに気づく (pp. 79-87)	事前学習	第6章を読み、事例1と事例2について自分の考えをノートにまとめておく。
		事後学習	同章を復習し、ワーク3を通じて発想の転換を試みる。

第6回	第7章 異文化の認識 (pp. 93-99)	事前学習	第7章を読み、確認チェック8、9を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、考えるポイント (p.99) を通じて自身の体験について振り返る。
第7回	第8章 差別を考える (pp. 105-111)	事前学習	第8章を読み、大切だと思う部分をノートにまとめておく。
		事後学習	同章を復習し、考えるポイント (p.111) を通じて自身の体験について振り返る。
第8回	振り返り - 自文化と異文化理解について	事前学習	これまで学んだことを「まとめプリント」を通じて振り返る。
		事後学習	同章を復習し、異文化理解についての小レポートを書く。
第9回	第9章 世界の価値観 (pp. 117-126)	事前学習	第9章を読み、ワーク5を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、考えるポイント (p.126) を通じて自身の体験について振り返る。
第10回	第11章 異文化受容 (pp. 143-150)	事前学習	第11章を読み、確認チェック10を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、考えるポイント (p.150) を通じて自身の体験について振り返る。
第11回	第12章 自分を知る (pp. 155-163)	事前学習	第12章を読み、ワーク6、7を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、授業内グループワークで得た意見を整理しておく。
第12回	第13章 非言語コミュニケーション(pp. 169-176)	事前学習	第13章を読み、ワーク8、9を教科書またはノートに書き込んでおく。
		事後学習	同章を復習し、ワーク9で得たグループ内の意見を整理しておく。
第13回	第15章 多文化共生社会の実現に向けて(pp. 193-207)	事前学習	第15章を読み、ワーク12を自分なりに考えノートにまとめておく。
		事後学習	ワーク12のグループ発表ができるよう準備をする。
第14回	まとめ1 - 多文化共生社会の実現に向けたグループ発表	事前学習	ワーク12のグループ発表のリハーサルをして本番に備える。
		事後学習	自分のグループと他グループの発表で得た学びについて整理しておく。
第15回	まとめ2 - 多文化共生社会の実現に向けたグループ発表	事前学習	ワーク12のグループ発表のリハーサルをして本番に備える。
		事後学習	自分のグループと他グループの発表で得た学びについて整理しておく。